

デジタルインボイス活用促進協議会

「企業における受発注、経理業務実態調査委託業務」 県内企業へのヒアリング調査結果

2024年7月23日

株式会社十六総合研究所

No.	企業	業種	従業員数
①	A社	製造業	約30名
②	B社	小売業	約500名
③	C社	製造業	約200名
④	D社	運送業	約100名
⑤	E社	製造業・卸小売業	約300名

No.	受発注方法	A社	B社	C社	D社	E社
①	店頭		○			○
②	電話、FAX	○		○	○	○
③	郵送	○				○
④	メール	○		○	○	○
⑤	EDI、WEB、専用システム等		○	○	○	○

- ・受発注には主に電話、メール、WEB、システムを利用している
- ・大手企業とは、EDI、WEBを利用する傾向にある

No.	発行方法	A社	B社	C社	D社	E社
①	所定の用紙に手書き				△	
②	Excel(テンプレート書式)	◎	○	◎ (Access)	△	○
③	市販の会計ソフト					
④	自社・取引先のシステム	○	◎		◎	○
⑤	発行しない					○

- ・Excelもしくはシステムにより発行することが多い
- ・請求書を発行せず、納品データを基にして支払う企業もある

No.	交付方法	A社	B社	C社	D社	E社
①	手交		○	○		
②	郵送	◎	◎	○	◎	○
③	メール			○		○
④	システム	○			△	○
⑤	送付しない					○

- ・請求書の交付は郵送がメイン
- ・取引先からの要請等でシステムにより送受している企業もある

インターネットバンキングの利用状況

No.	利用シーン	A社	B社	C社	D社	E社
①	残高・入出金照会	○	○	○	○	○
②	都度振込	○	○	○	○	○
③	総合振込	○	○	○	○	○
④	給与振込	○	○	○	○	○
⑤	自社内の資金移動	○	○	○	○	○

- ・インターネットバンキングはどの企業も利用している
- ・支店・支社をもつ企業では、マルチバンクを活用している

No.	支払方法	A社	B社	C社	D社	E社
①	インターネットバンキング	◎	◎	◎	◎	◎
②	ATM					
③	銀行窓口				△	
④	現金支払 (小切手・約束手形含む)	△	△	△ (でんさい)	△	△

- ・基本的にはインターネットバンキングを利用している
- ・税金の支払など、限られたシーンで現金を利用している

No.	会計処理	A社	B社	C社	D社	E社
①	請求書発行	2時間	各店舗で実施のため 不明	6時間	2時間	60時間
②	支払手続き	30分		12時間	3時間	60時間
③	売掛金消込	~30分		8~10時間	3時間	120時間

- ・企業の規模が大きくなるにつれ、処理件数が増加し、処理に要する時間も増加
- ・どの企業も月末や20、25日に業務が集中している
- ・システム導入により事務効率化を図り、従前に比べ短縮されている

No.	認知度	A社	B社	C社	D社	E社
①	よく知っている		○			
②	聞いたことがある程度				○	○
③	知らない	○		○		

- ・インボイス制度開始に伴い、調査を行った企業もある
- ・自社システムで活用できるか不安な企業が多い
- ・取引先が対応するかどうかの懸念もある

- デジタルインボイスの送受信の方法について、イメージしづらい。
- 自社の会計ソフト、基幹システムで対応できるのか不安がある。
- 特に小規模事業者においては、既存の事務フロー（紙ベース）の方が効率的と考えている。
- インボイス制度の開始に伴い、事務フローの見直しやシステム導入を行った企業も多く、そこに追加でデジタルインボイスに対応することに抵抗が感じられる。
- 受発注双方がデジタルインボイスに対応しなければ、既存の事務フローと並行して行うこととなり、事務作業が増えそう（特に全国に取引先がある企業にとっては、普及前の段階ではメリットが少ない）。

- デジタルインボイスを導入した際の事務フローを、わかりやすく解説する(既存の事務フローと比較できると良い)。
- 会計ソフト等との連携イメージを具体的に示す(担当税理士を通じて等)。
- 事務効率化だけでなく、人為的ミスの防止やデータ改ざんの防止といった点を経営者層に伝える。
- リリース直後に、より多くの企業がデジタルインボイスに対応するよう働きかける(スタートダッシュが重要)。特に県内企業との取引が多い企業等が早期にデジタルインボイスに対応することで、多くの企業においてメリットを感じやすくなる。

ご清聴ありがとうございました

